



かねへんの「原理・原則」を子どもたちといっしょに考える。このような場面を授業のなかにたくさんつくりたい（写真は藤井先生の授業の一コマ）。

また、新しい学習指導要領では、言語活動の充実が謳われていますので、書写の時間でも子どもたちに話し合いをさせたり、自分の意見を発表させたりする場を積極的につくっていききたいですね。

宮澤 発問研究ですね。他教科では普通に行われている発問研究が、書写の時間ではあまり行われていないんです。

藤井先生は「金」が「かねへん」と発問し、「右上がりになる」「右はしがそろう」などの「へんの原則」や、「ぶつからない、ゆずり合う」という「へんの原理」を子どもたちに考えさせていました。発問によって、子どもたちに思考させ、書写の「原理・原則」を身に付けさせることが大事です。

子どもたちを思考させるために、書写授業で心がけることは何ですか。

宮澤 発問研究ですね。他教科では普通に行われている発問研究が、書写の時間ではあまり行われていないんです。

藤井先生は「金」が「かねへん」と発問し、「右上がりになる」「右はしがそろう」などの「へんの原則」や、「ぶつからない、ゆずり合う」という「へんの原理」を子どもたちに考えさせていました。発問によって、子どもたちに思考させ、書写の「原理・原則」を身に付けさせることが大事です。

そうだね。宮澤先生にいろいろ聞いてみよう！



イラスト：荒井良二
ピッチちゃん

前回の授業レポート、とてもおもしろかったね。書写についてもっと知りたくなったよ。



ペンちゃん

書写の授業を変えよう

連載

書写の時間を考えよう

特別編

前号（小学校国語教育相談室68号）で、藤井浩治先生の授業をレポートし、書写授業の魅力を目の当たりにした、ピッチちゃんとペンちゃん。今回は、教科書の編集委員である宮澤正明先生に、これからの書写指導で求められることや、新しい教科書の魅力についてお聞きします。



藤井先生の授業を見て、たった45分で子どもたちの字がぐんとつまくなったので、とても驚きました。

宮澤 「考えて書く」と変わるんですよ。

藤井先生の授業では、「なぜこうなるの？」と疑問を投げかけ、子どもたちに考えさせていたでしょう。そういう「思考する場」を、きちんとつくっているんですね。

書写の時間って、先生も子どもも思考が停止しがちなんです。「今日、書く字のポイントはどこだよ。じゃあ、お手本見ながら書いてみよう」と説明し、子どもは手本や教科書を見ながらひたすら手を動かし、先生はその様子を眺めていたり、ときには手を取って指導したりもし



「原理・原則」を身に付けさせることは、なぜ大事なのでしょうか。

宮澤 「書写」は、高校芸術科「書道」のように、高度な技術や表現方法を学ぶ場ではなく、文字を正しく整えて書くための知識「原理・原則」を理解し、それらをふまえた技能を養うことを目指すのです。

私は、大学の「書道」の授業では、約半分は「書写」の学習内容である筆使い、字形、配列などの「原理・原則」を徹底して考えさせます。

例えば、整った字形と整っていない字形を並べて見せて、「どっちの字形が整って書けていると思いますか」と尋ねます。もちろん全員が整った字形を指差しますが、「なぜ、整っていると思うの？」と聞くと、「何となくそう思う」とか「そう教わってきた」とか、あまり上手く答えられない。ほとんどが教師を目指す学生たちですが、小・中学校で学ぶべき「原理・原則」に関して意識をしてこなかったんですね。ですから、それを理解して書くときたちまち字形が整いやすく、他の文字にも応用できることに深く感動するようです。



みやざわまさあき
宮澤正明

山梨大学教育人間科学部教授、大東文化大学講師。静岡県生まれ。光村図書の小・中学校書写、高等学校書道の編集委員。著書に、『書写なんでも百科第3・4巻』（岩崎書店）、『毛筆書写墨場必携』（日本習字普及協会）など多数。

ますが、そうこうしているうちに、もう、まとめの時間になってしまふ（笑）。思考する場や時間の設定が少ないのがちょっと残念ですね。

思考して書く、一枚目と三枚目の筆使いや字形は明らかに変化します。たった一時間の授業で成果が目に見えるので課題解決型授業にしやすい。またメタ認知（※1）の最たるものだと言う方もいます。新しい学習指導要領でも、「表現力・思考力・判断力」が重視されていますので、書写の時間でもぜひ思考する場や時間をつくってほしいですね。



書写の授業は「難しい」と思っているらっしゃる先生も多いようですが…。

「なぜ整った字形に見えるのか」の「なぜ」の部分、小学生の頃から追究させていきたいと強く思います。

宮澤 「書道」との混同があるかもしれないですね。私は、書写の力というのは、どんな筆記具であれ「全員が達することのできるレベルの字形、その書き方」と考えています。文字の造形性を求めたり、高度な技術による線を出したりする必要はまったくないんです。

このように、みんなが共有できる知識と技能を身に付けばよいわけですから、書道の心得がなくとも書写の授業は「誰にでもできる」ととらえ、自信をもって指導していただきたいと思っています。

書写の授業では、「原理・原則」を子どもといっしょに考えよう！



※1 メタ認知：自分の行動や思考を、客観的に判断し認識すること。

※4 絵解きが多いのも特長。
ピッチャン、ペンちゃん
が大活躍。

※7 漢字指導と連携した「わ
くわく漢字教室」。この
コーナー以外にも、国語
の教科書との連携を図る
コーナーが随所にある。



平成23年度版 三年

※5 見開きページを使って、大胆にレイアウト。
このようなビジュアルの工夫が随所に見られる。



平成23年度版 五年

●新版教科書のポイント

主教材(手本)

原理・原則



平成23年度版 四年

※6 主なページに自己評価欄
「ふり返ろう」を入れた。

※2 「口」は、次の画へ短い距離で移動しようとする「近道の原理」
が働くため、二画目の終筆が内側に入り、横画の終筆が外に出
る。「田」は、内部に画があるため、二画目で「いったん停止する」
という原理が働き、縦画が外に出る。
それらの原理を、「回」を使って、わかりやすく解説している。

宮澤 やはり書写の授業では「原理・原則」
を考えたり教えたりしていきたいの
で、そういう紙面構成にしています。
書写の教科書は「見開きの右側に主教材
(手本)、左側に解説」という構成に
することが多かったのですが、光村の教科
書は、まず「原理・原則」を理解した
後に、大きく書いてその確認に入るため、
右側に「原理・原則」、左側に「主教材」
という構成にしています。

そして、新しい教科書で特筆すべき
は、「原理」つまり「なぜそういう書き
方をするのか」を随所に載せている点で
す。今までの教科書では「原則」は掲載
していましたが「原理」的解説やそま
で追究する内容は載せていなかったと思
うんです。

例えば、「口」「田」のように、囲まれ
た四角の右下には二通りの接し方があり
ます。「口」では横画の終筆が、「田」で
は縦画の終筆がそれぞれ外に出ます。今
までの教科書は、その「原則」だけを載
せていましたが、新しい教科書では、「原

ほかに、手軽に自己評価できる「ふ
り返ろう」(※6)や、国語の教科書との
連携を重視し、漢字指導と直接リンクし
た「わくわく漢字教室」(※7)なども新
しい試みですね。

宮澤 書写の授業は、開発の余地がたく
さんあります。ぜひ、他教科で行って
いる発問研究や教材研究などを、そのまま
書写に当てはめて実践してみたいです
ね。

新しい学習指導要領では、言語活動が
一つのキーワードになっていて、書写は
その一翼を担う重要な学習です。
子どもたちと楽しみながら、いっしょ
に考え、学んでいっていただきたいです
ね。新しい教科書がその一助になること
を願っています。

新版教科書で、
書写の授業を変えよう！

